

「黄鹤楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」 期末テスト対策ポイント

黄鹤楼にて孟浩然の広陵に之くを送る

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る
 李白

故人西辞ニ黄鹤楼ヲ
 烟花三月下揚州ニ
 孤帆ノ遠影碧空ニ尽キ
 唯見ル長江ノ天際ニ流ルヲ
 故人西のかた黄鶴楼を辞し
 烟花三月揚州に下る
 孤帆の遠影碧空に尽き
 唯だ見る長江の天際に流るるを

黄鹤楼(こうかくろう)にて孟浩然(もうこうねん)の広陵(こうりょう)へ
 之(ゆ)くを送る

作者:李白(りはく)

詩の形式:七言絶句(しちごんぜっく)

※李白は、杜甫と並ぶ唐代(中国の王朝の名前)に活躍した詩人



テスト対策ポイント① 詩の形式について

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の詩の形式

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は、全部で4つの句からできている漢詩なので、詩の形式は「絶句」になるよ。

春暁や杜甫の作品は、ひとつの句が5文字で作られていたから、「五言絶句（ごごんぜっく）」という形式だったけれど、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵へ之くを送る」は、ひとつの句が7文字で作られているので、「七言絶句（しちごんぜっく）」という形式なんだ。

		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ぜっく 絶句</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">りっし 律詩</div>
		4つの句で できている漢詩	8つの句で できている漢詩
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ごごん 五言</div>	ひとつの句が 5文字	五言絶句 (五言 + 絶句)	五言律詩 (五言 + 律詩)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">しちごん 七言</div>	ひとつの句が 7文字	七言絶句 (七言 + 絶句)	七言律詩 (七言 + 律詩)

漢詩の形式の見分け表

この「七言絶句」は高い確率でテストに出るので、絶対に覚えよう！



テスト対策ポイント② 表現技法について

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の表現技法

倒置法

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵へ之くを送る」の第四句には、倒置法が使われているよ。

倒置法とは

文章の語順をあえて通常とは逆にすることで、印象を強める効果がある表現技法のこと。
第四句の「唯だ見る長江の天際に流るるを」は、通常なら

「長江の天際に流るるを唯だ見る」

というふうになるよね。

それをあえて逆にして、印象を強めているんだね。

テストでは、「どんな表現技法が使われているか?」とか、「第四句にはどんな表現技法が使われているか?」とか、「倒置法が使われているのはどこか? (答えは第四句)」とかいうように問題が出るよ。

押韻

押韻というのは、「韻を踏む」こと。

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵へ之くを送る」では、第一句、第二句、第四句で韻が踏まれているよ。

第一句 故 人 西 辞 黄 鶴 楼 (ロオウ)

第二句 煙 花 三 月 下 揚 州 (チオウ)

第四句 唯 見 長 江 天 際 流 (リオウ)

テストでは、「第何句に押韻が使われているか?」とか、「韻を踏んでいる漢字を3つ書きなさい」というような問題が出ることもあるよ。



テスト対策ポイント③

漢字を読めるようになっておこう

黄鶴楼（こうかくろう）・・・中国の武昌という町にある建物の名前。

孟浩然（もうこうねん）・・・唐代の詩人の名前。「春暁（しゅんぎょう）」の作者だったね。作者の李白とは古くからの親友。

広陵（こうりょう）・・・中国に昔あった郡の名前。揚州（ようしゅう）＝広陵。

煙花（えんか）・・・春の「かすみ」のこと。

孤帆（こはん）・・・たったひとつだけ見える「ほかけ船（帆があるシンプルな船）」。

碧空（へきくう）・・・青空のこと。

天際（てんさい）・・・空のはてのこと。

テスト対策ポイント④

それぞれの句の意味について

第一句

「故人西のかた黄鶴楼を辞し」というのは、

「私の古い友人は、西にあるこの黄鶴楼に別れを告げて」という意味。

「故人」というのは、日本語だと「亡くなってしまった人」という意味だけれど、中国では「古い友人とか、古い親友」という意味なので注意。

この「古い友人」というのが、孟浩然のことなんだね。

「辞し」というのは、あいさつをして引き下がること。つまり、別れを告げて黄鶴楼から去ってしまうという意味なんだ。

第二句

「煙花三月揚州に下る」というのは、「春がすみの三月に、揚州へと（船で）くだっていく」という意味。「煙花」は、春のかすみのことだったね。

この漢詩の中での季節は三月で、春かすみが立つようなころということが分かるね。

「揚州に下る」というのは、「揚州へ」「船で下る」ということだね。なぜ「下る」かというと、孟浩然是長江（中国を流れる川の名前）を使って揚州へ行くのだけれど、黄鶴楼があるところに比べて、目的地の揚州は下流にあるから。



第三句

「孤帆の遠影碧空に尽き」とは、
「たったひとつの帆かけ船がどんどんと遠ざかって、青空の中へ消えてしまう」という意味。
遠影は「どんどんと遠ざかって、遠くにシルエットが見える」状態だね。

第四句

「唯だ見る長江の天際に流るるを」とは、
「（私は）長江が空のはてまでつづいて流れていくのを見るだけ」ということ。

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵へ之くを送る」のテーマは？

第一句から第四句までの内容をまとめると、

春がすみの三月、作者の李白は、古くからの親友である孟浩然が、黄鶴楼に別れをつけて揚州へと旅立ってしまうのを見送っている。

孟浩然は、帆かけ船にのって、長江を下って揚州へ向かう。

孟浩然の乗っている船は、どんどん遠ざかって小さなシルエットになり、とうとう青空の中へ消えてしまう。

孟浩然の船が見えなくなってしまったそのあとは、李白はただ長江が空のはてまでつづくように流れているのをずっと見るばかりだった・・・

ということ。

李白は、孟浩然が去ってしまうのが寂しくて、ずっとその姿を見送り続けていたんだよね。

ズバリ、この漢詩のテーマは「友人と別れることの悲しみ」だよ。



「黄鶴楼にて孟浩然の広陵へ之くを送る」まとめ

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵へ之くを送る」まとめ

※赤いキーワードは必ず覚えよう!

- 絶句の詩の形式は「七言絶句」。
- 作者は唐代の詩人「李白」。
- 第四句では「倒置法」が使われている。
- 第一句と第二句、第四句の「楼」「州」「流」で押韻が使われている。
- 難しい漢字の読みを確認しよう!
- それぞれの句の意味を理解しよう!
- 詩のテーマは「友人と別れることの悲しみ」。

